



## 今後の日程を確認し、**×切や手続きを 忘れず行ってください**

受験での主役は、生徒と保護者で、学校や教師はあくまでも脇役です。いろいろな書類の集約や発送などは学校の方で行いますが、生徒（保護者）がやらなければならない手続きなども多くあります。忘れずお願いします。下記は、推薦関係や、国立・私立高校の検定料の振り込み期間です。

### 〈推薦手続きの手順〉

- ①進路希望調査に推薦希望であることを明記する。
- ②本人が担任の先生に口頭で推薦希望の意志を申し出る。  
**意志表示期間 11月29日（月）～12月8日（水）**（公立は12月17日（金））
- ③「推薦要件」について生徒がしっかりとした考えを持っていると担任が判断した場合、「推薦希望願い書」を受け取ることができる。
- ④個人面談期間終了までに「推薦希望願い書」の文章内容について担任から指導を受ける。  
**個人面談期間 11月29日（月）～12月8日（水）**（公立は12月17日（金））
- ⑤「推薦希望願い書」の内容について担任が十分であると判断したら、推薦を校内推薦委員会に提出する。  
**「推薦希望願い書」×切 12月10日（月）**（公立は12月23日（木））
- ⑥津幡南中としての推薦を校内推薦委員会において書類審査で決定する。  
**私立・国立・高専校内推薦委員会 12月16日（木）実施**  
**公立校内推薦委員会 1月13日（木）実施**
- ⑦私立・国立・高専は12月16日（木）、公立は1月13日（木）に校内推薦委員会を開き、早急に結果を家庭連絡、後日必要書類を配布する。
- ⑧私立・国立・高専は12月27日（月）までに、公立は1月21日（金）までに願書等の出願に関わる必要書類を提出すること。

### 〈国立・私立・高専の推薦入試検定料振込期間〉←推薦願書等は12月20日（月）配布

12月21日（火）～12月24日（金）

※ただし、銀行の窓口営業日は、12月21日（火）、12月22日（水）、12月23日（木）、12月24日（金）の4日間です。

### 〈私立の一般入試検定料振込期間〉←一般願書等は12月23日（木）配布

12月24日（金）～1月6日（木）

※銀行の年末年始の窓口営業は、原則12月31日～1月3日は原則休業です。



## いよいよ12月です！

## 受験校の決定へ向けて最終調整へ



いよいよ12月となりました。1月からは私立高校の推薦入試が始まります。入試本番への最後の月となるわけです。1日も早く自分の受験校を決定し、具体的な目標を設定した上で、それぞれの入試の日をめざして努力して行って下さい。私立高校の一般入試は、2月1日（火）ですから、多くの人は2ヶ月あまりとなります。あと63日です。緊張感を持ち、落ち着いた生活を送るよう心がけましょう。

# 私立は落ちない？という噂が… 「私立受験校決定に向けて」



先日気になることを小耳に挟みました。「私立は落ちないよね？!」と言っているのです。私立高校は確かに不合格の人はかなり少ないです。それは、多くの先輩方が無謀なチャレンジをせずに堅実な選択をした上で、本番にその力を十分に発揮できたということではないのです。今の皆さんに求めるのは、やればできるということで判断するのではなく、「今現在の力を、冷静に判断し、堅実な受験校を決定する力がついていること」だけです。「今から頑張るから」「次は頑張るから」と言いながら1日延ばしにしてきて今日までできました。もう限界です。今後の自分の力を期待して受験校を決めることはできないことを早く自覚してほしいものです。また、いよいよ個人面談が始まります。自分の希望と現実はどうですか。自分の思っていた通りですか。ここで、いくら我を貫いても、現実が変わりません。ただ、先生方の予想がすべて当たるわけではありません。でも、過去の実績からほとんどの中めています。わずかな望みに賭けますか。望みがかなえば良い方ですが、かなわなかったらどうしますか。その後弱気になってしまって受かるはずの公立も…。そういう現実を何度も見てきました。だからこそ、しっかりと考えて、悔いの残らないように、家の人ともよく相談して、最後は自分で決めてください。さて、「高校は学ぶところだ」ということをしっかりと自覚していますか。単に近いからではダメですね。その高校の目指している方向に合っていますか。いわゆる進学高と言われている高校では7限まで授業があります。また、土曜日も補習があります。勉強の習慣がついていますか。知的好奇心いっぱいの人を待っています。のんびりと学びたい人やもう一度基礎を学んでいこうという人は、先日の進路説明会でも聞いたようにいろんな高校があります。資料もありますので、よく調べてみてください。そして、自分のペースに合った高校を選び、「何を学びに行くのか」「どんな生活をするのか」よく考えておいてください。さらに、高校は義務教育ではありません。ということは、保護者は皆さんを高校へ通わせる義務はありません。ですから、高校へ進学したいのであれば、家の人にお問い合わせをしましょう。授業料(9,900円分無償です)や教科書代(無償ではありません)、PTA会費、修学旅行の積み立てなどなどいろいろと今まで以上に経費がかかります。行ってやるんだではなく、感謝をしながら、口に出さないまでも、せめて自分のことはもちろん、家族の一員としてできることは労を惜みず手伝いましょう。自分の将来です。もちろん家の人や先生や先輩などのアドバイスは聞きながらも、自分で決めましょう。家の人にごしたいんだとお願いしましょう。先生方は最終的には、家の人でなく皆さんの味方の立場でPTCA(三者面談)に臨むつもりです。だからこそ、皆さんは家の人とよく話し合っておいて下さい。

## 三者懇談までに家でしておいてほしいこと

保護者には「親子でよく話し合い、我が子の希望を中心にすえた進路選択の方針をきちんと押さえておく」、これをしっかりとやっておいてほしいと思っています。

では、何を具体的に話し合っておけばいいの？という方のために、以下にポイントを列挙します。

### 【 ここを押さえて面談に臨もう 】

- ① 個人面接で聞いたことを基に保護者の意向と本人の希望が一致するように、よく話し合う。親の押しつけでなく、生徒自身が十分納得した進路選択になっていますか。
- ② 見栄や体裁で、可能性がかなり低いのが分かっているけど受けるだけ受けてみようというような選び方になっていませんか。
- ③ 生徒の性格をよく考えて、その上で、学校生活(入学後も模範となれるか)や実力(入学後に中位以上でやれるくらい)、適性や動機、高校での目的を考慮して、推薦制度の利用が適しているかどうかを判断しましょう。人物も実力もきちんとした優秀な人から合格内定していきます。自信はありますか。
- ④ 私立と公立を合わせた中で、第1志望はどこの高校かを決めておくこと。場合によっては、私立のみにある専願制度(加点)を利用するかどうかよく話し合っておいてください。専願で出すと、合格可能性は多少上がりますが、合格できたならば「必ずその高校へ入学し、公立の受験はできません」。制度の利用は慎重に、決定して下さい。

